

第1章 MICEとは（P2ー）

- MICEの開催は高い「経済波及効果」を生み出すとともに、「産業力の強化」や「都市のプレゼンス向上」が見込まれるなど都市の競争力の強化に寄与することができる。
- コロナ禍を契機に、対面とオンラインを併用したハイブリッドでの開催が急速に進んだことで、現地への参加による「経済波及効果」以外の「産業力の強化」と「都市のプレゼンス向上」の意義がより重要視されている。

第2章 東京のMICEを取り巻く環境（P11ー）

現状

- 誘致戦略に基づく様々な支援策を実施した結果、国際会議開催件数305件（2019年UIA国際会議統計）の実績
- コロナ禍でMICE開催件数は大幅減となったが、東京への関心を繋ぎ止めるためのプロモーションや感染症対策など安全安心な受入環境の整備、オンライン手法を活用した会議開催への支援等を実施

課題

今後、国際的な交流が回復するにつれて、各都市における誘致活動が積極的に展開されることを踏まえ、東京が更に競争力を高めていくための課題

- コロナ禍で厳しい状況に置かれている都内産業の早期回復の後押し
- デジタル技術を活用したMICEのあり方の見直し
- 持続可能なMICE誘致を実現するための地域における受入環境づくりの推進
- MICE業界における環境に配慮した取組の推進

第3章 戦略（P23ー）

目指す将来像

- MICE開催を通じて、産業や文化・スポーツなどの国際交流が活発に行われ、都内経済・産業が活性化
- デジタル技術を活用し、多様な人々の参画や運営の効率化が図られ次世代型のMICEが確立
- 都内事業者や住民が一体的にMICE誘致に取り組む気運の醸成による地域の活性化
- CO2排出量低減などの取組が恒常的に行われ、世界屈指の環境に配慮したMICE開催都市の実現

目標

『世界的なMICE開催都市としての地位を一層向上し、持続可能な都市・東京の実現に貢献』

➡ 2030年における国際会議開催件数 世界3位以内 ※ICCA国際会議統計に基づく順位

[取組期間] 2030年の中間年となる2026年までの4年間（2023年～2026年）

5つの戦略

戦略1 グローバル対応の集中的な強化による誘致推進

- より効果的なマーケティングの実施
- 実効性の高い積極的なプロモーションの展開
- 他都市の動向を踏まえた主催者のインセンティブを一層高める支援策の充実

戦略2 多様なポテンシャルを活かしたMICE開催効果の最大化

- ユニークベニユーの機能強化など一層の魅力向上
- 国際会議の主催者や参加者の更なる満足度の向上
- 多摩・島しょ地域の魅力発信と地域における誘致活動の促進

戦略3 デジタル技術の活用促進によるMICEの付加価値向上

- デジタル技術を活用したMICEの開催支援
- MICE業界におけるデジタルに精通した人材の育成

戦略4 多様な主体や地域との連携推進

- 国や業界団体等との連携推進
- 地域における主体的なMICE受入環境づくりの促進
- 国内他都市と連携したMICE誘致

戦略5 環境に配慮した社会づくりに資するMICEの推進

- 環境配慮等のサステナブルな取組の促進
- MICEにおける環境配慮に係る人材育成

KPI

- (1) 東京での国際会議開催に対する都の支援の寄与度
- (2) ユニークベニユーの活用促進や多摩・島しょ地域でのMICE開催に関する助成等申請件数
- (3) 国際会議主催者及び参加者の満足度
- (4) デジタル技術の導入に関する問い合わせ件数
- (5) 都民等を対象としたMICEへの理解を促進するために開催するシンポジウム等への参加者数
- (6) サステナブルMICEサポートデスク（仮称）への問い合わせ件数